

太宰府の文化財

397

新指定された文化財

3月28日に行われました太宰府市文化財専門委員会の答申を受けて、4月26日付で、以下の1件が新たに太宰府市指定文化財に指定されました。

なお、平成27年に台風被害を受けた「晴明井のエノキ」については、平成29年6月30日付けで、市指定天然記念物を指定解除されました。太宰府市指定文化財は、これで合計32件となります。

◎有形文化財（1件）
齋藤家資料

「齋藤家資料」は、齋藤家に伝わっていた、江戸時代後期に活躍した筑前を代表する絵師・齋藤秋圃（1772～1859）とその子梅圃（1816～1875）を中心とした資料で、その内容は画稿（下書き）を中心に書簡や日記など1408件におよびます。

齋藤秋圃は、京都生まれで、岡山応挙や森狙仙を師とし、上方の風俗

絵師として活躍します。その後秋月藩の御用絵師に登用され、隠居後は太宰府に居を移しています。太宰府では、齋藤秋圃に絵の手ほどきを受けた萱島鶴栖・吉嗣梅仙をはじめ、江戸後期から近現代にかけて、絵師たちが活躍しますが、齋藤秋圃が太宰府の南画（中国の南宗画に由来する画派）の創作活動の礎を築いたといえます。

1000件を超える画稿類が町絵師の家にまとまって伝わる例は、全国的にも珍しく、この資料は、江戸後期を代表する南画絵師である齋藤秋圃を研究する上で極めて貴重な資料と言えます。

文化財課



鐘馗図



寿老人図



綾部八幡宮社参図

『太宰府の絵師 齋藤秋圃』展

会期 6月2日(土)～7月16日(月祝)

月曜休館

会場 太宰府市文化ふれあい館展示室・多目的ホール

※観覧無料

本市では、齋藤家が保管されていた資料を4年かけて本格的に調査しました。今回は、調査によって明らかとなった貴重な画稿の数々を作品と共に展示しています。研究者注目の展示は、初公開の資料ばかりです。文化財に慣れ親しんだ太宰府市民にとっても、見逃せない貴重な機会です。筑前を代表する絵師のユニークな構図と伸びやかな筆使いを、ぜひご覧ください。

オープニングイベント

○開会式 ○展示解説

6月2日(土)午後1時30分～2時30分

展示特別講座

○「齋藤秋圃研究の歴史」

橋富博喜(元近畿大学教授)

6月16日(土)午後1時30分～3時30分

太宰府市文化ふれあい館1階実習室

※申込不要、受講無料

問い合わせ

文化財課(☎内線472)